

文化財 ぶんかざい だより No.1

発行 ■ 太田市教育委員会
発行年月日 ■ 平成15年3月25日
編集 ■ 太田市教育委員会文化財課
住所 ■ 群馬県太田市浜町2番35号
電話 ■ 0276-45-7108



「歩き・み・ふれる歴史の道」

ぐんま新田荘中央大会



金山城跡をめざし太田市役所を元気にスタート！

平成14年10月20日(日)、「歩き・み・ふれる歴史の道」ぐんま新田荘中央大会〈新田荘歴史・街道ウォーク〉が開催されました。この大会は、文化庁が主唱する「歩き・み・ふれる歴史の道」事業の第8回全国大会として、太田市・尾島町・新田町の1市2町を会場に開催されたものです。新田荘遺跡や金山城跡などの史跡、日光例幣使道やあかがね街道などの歴史の道を中心とした6つのコースに分かれ、千数百人の参加者が文化財や自然に親しみつつ

ウォーキングを堪能しました。

主会場となった太田市役所(写真)では、実行委員長の清水市長が主催者挨拶を行い、文化庁次長、県教育長など来賓の方々にもご挨拶をいただき、名物の八木節も披露されて金山城跡・街道ウォーク〈実城コース、ファミリーコース〉がスタート。大光院・金龍寺・金山城跡・日光例幣使道(本町通り)などを経て再び市役所に戻りゴール。コース誘導や文化財説明などボランティアの協力も好評でした。

金山城跡の調査と

● 西城見附出丸でも石垣が見つかる ●



夕陽に映える見附出丸の土塁石垣

黄昏に 石垣残る 見附跡

見附出丸の発掘調査では、石垣が見つかりました。石垣は、金山城の中核部だけでなく、西の防御拠点にも築かれていたのです。

金山城は、廃城となる6年前に、謀略により小田原北条氏の支配下となります。見附出丸は、迫り来る豊臣秀吉軍に備えて普請されたと考えられます。金山城がその終焉に近づく中、石垣を築き、戦に備えた当時が偲ばれます。



完成した「金山城跡」名称石碑と木造四阿

名称石碑四阿の建立

ふるさとの 城跡記す 石碑建つ

創立30周年を迎えた「東毛経済同友会」から、記念の一環として、ふるさと金山の第1期整備事業完了を期に、『史跡金山城跡』の名称石碑が寄贈されました。

また、石碑の脇には、昭和30年代に建てられたバス停を解体し、新たに木造の四阿を建設しました。

山桜の植樹

強者の 夢に咲き散れ 山桜

豊かな自然に恵まれた金山は、四季を通して市民の憩いの場になっています。特に、春には山桜の成木が数多くあり、花見を楽しむ市民も多く訪れます。そこで、第1期整備事業の完了を期に「太田ライオンズクラブ」より山桜の寄贈を受け、整備完了区域内に植樹を行ないました。



馬場曲輪に植樹された山桜

整備

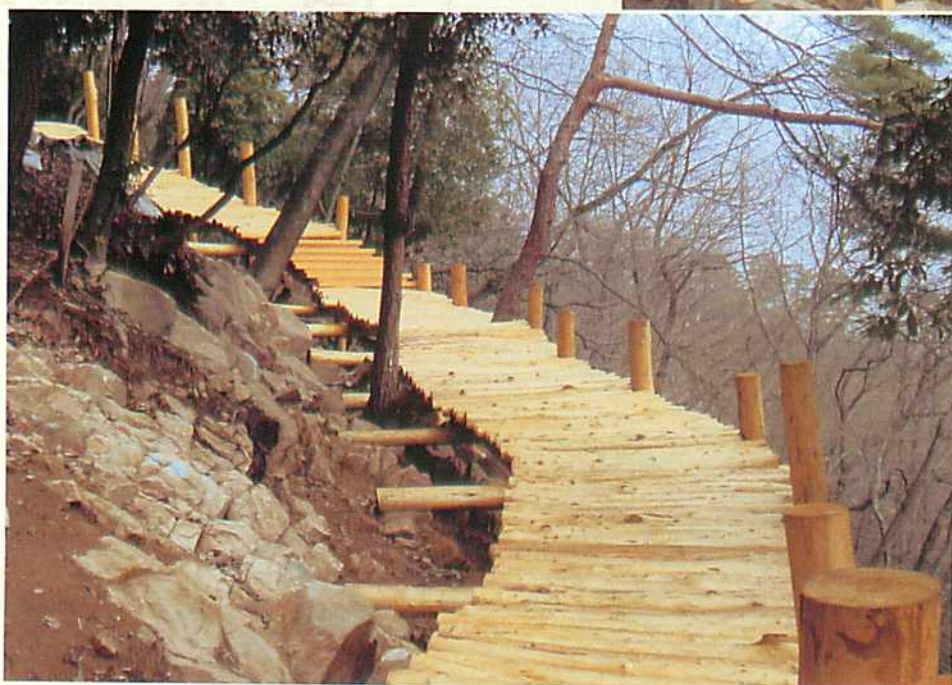
西矢倉台栈道

栈道を 歩けばわかる 城の道

「^{さんどう}栈道」とは、急斜面に沿って懸けられる道のことを言います。平成14年度の金山城跡環境整備事業においては、この「栈道」の復元整備を行いました。



復元された「^{さんどう}栈道」を南下管理道より見上げる



西矢倉台周辺で復元整備された「^{さんどう}栈道」

西城から実城までの間には、4本の堀切があります。この内、一番西寄りにある「西矢倉台西堀切」では、堀切内を利用した階段状の通路が見つかりました。通常、堀切とは、山の尾根筋を人工的に分断し、敵の侵攻を防ぐための施設ですが、「西矢倉台西堀切」は、堀切内を通路とした特異な堀切でした。また、「西矢倉台西堀切」南端部は、岩盤が急激に落ち込んでおり、堀切内通路から先は、どの方向へ通路が進むのか、これまで課題となっていました。

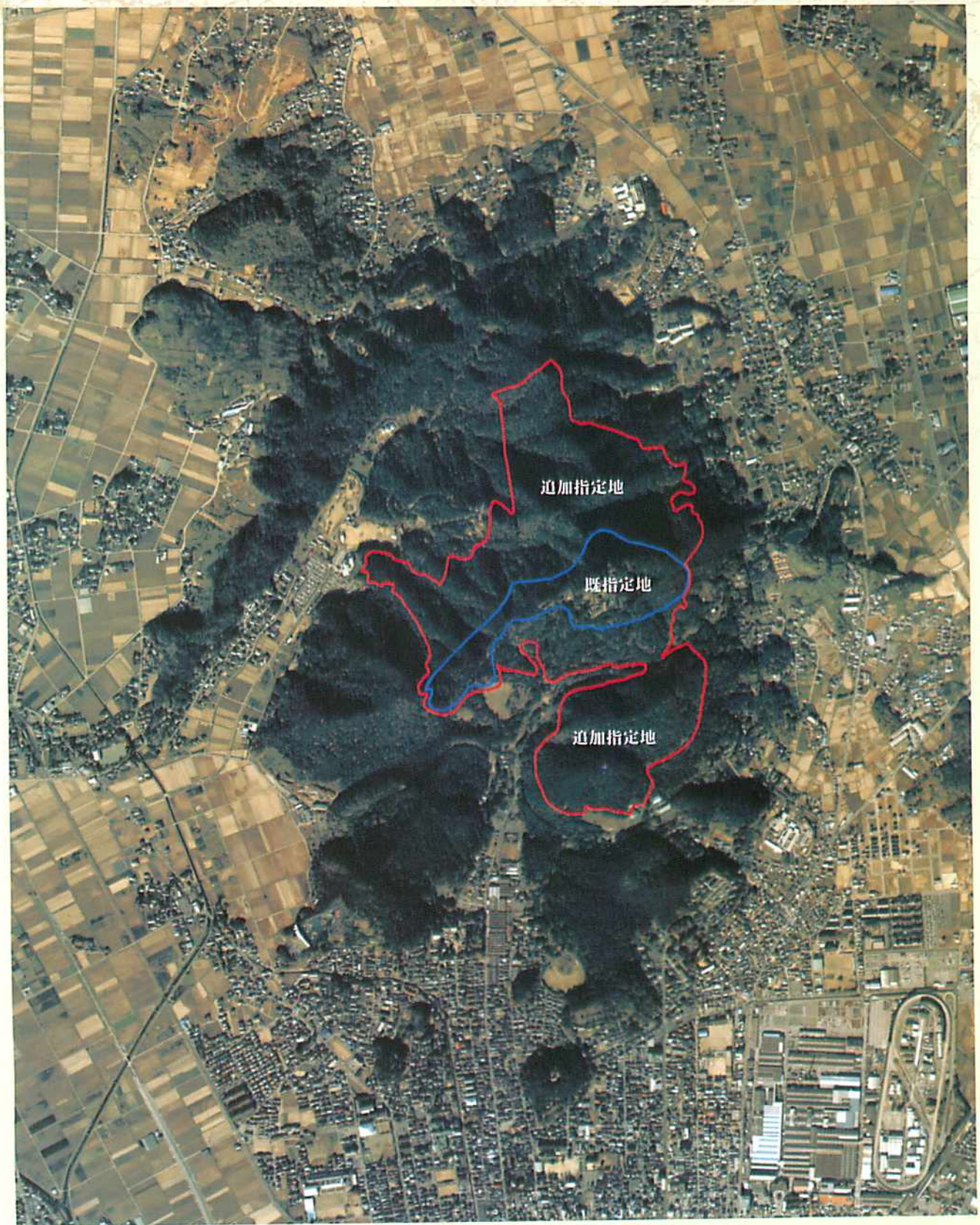
調査の結果、一番西寄りにある「西矢倉台西堀切」と西から二番目にある「西矢倉台下堀切」間の南斜面に「栈道」があった痕跡が見つかりました。この二つの堀切間では、柱穴列が西から東へ一連に約24mも延びていたのです。この柱穴列の北側は急斜面であるため、柱穴列は、急斜面に沿って丸太等の

床板を懸けるための「栈道」に伴うものと想定できたのです。

「栈道」は、構造上、懸け造りと呼ばれ、直線的ではなく、「折れ」がつくため、一連の構造体として丈夫なものです。しかし、この「栈道」は、金山城の幹線的なメインルートではなかったと考えられます。そのため、当時も大勢の人が通ることは考えず、あるいは、いざ敵が攻めてきたら簡単に取り外せるものだったのかも知れません。

中世山城の復元整備において、この「栈道」の整備例はありません。つまり、「金山城が全国初の栈道の復元整備例」となります。この「栈道」が実際に歩けるようになるのは、1年程後になる予定ですが、「栈道」を歩いて、中世戦国期山城の道を体験してください。

史跡金山城跡の追加指定



金山城は、昭和9年に実城域から西城域までの尾根部分18.3haが国史跡として指定されていましたが、300haに及ぶ金山城全域から見れば指定範囲はわずかな面積でした。

そこで、平成14年9月20日、金山城の主要な曲輪群である北城(坂中城)・八王子山ノ砦^{さむらい}・土屋敷を含めて追加指定され、史跡面積は、当初の約5倍である97.8haとなりました。



文化財愛護少年団



金山城跡の見学（馬場下通路で）



上強戸Ⅰ遺跡出土品の見学



岩宿人体験キャンプ（的をめがけてエイッ！）

文化財愛護少年団では、文化財の見学・体験やボランティア活動を通して、楽しく太田市の歴史と文化を学んでいます。市域とその周辺の素材を活かして年間4回の活動を行い、身近な地域を理解するとともに、団員同士の仲間づくりも進めています。発足から1年を経過したばかりですが、他の少年団体にはない、オリジナルな企画がたくさんあります。新規の加入は、いつでも受け付けています。みんなで文化財を楽しんでみませんか。詳しくは、文化財課へお問い合わせ下さい。

史跡めぐり



如印尼輝子の菩提寺「得月院」（牛久市）

- テーマ：「由良氏の足跡をたずねて」
- と き：平成14年6月16日（日）
- ところ：茨城県牛久市（得月院・牛久城跡）・龍ヶ崎市（金龍寺）
- 参加者：35名

今回は、金山城主であった由良国繁移封後の地である茨城県牛久市・龍ヶ崎市を訪ね、得月院や金龍寺など由良氏ゆかりの文化財を見学しました。妙印尼輝子の波乱の一生に思いを馳せ、また、この地でも敬愛されたという人柄を偲び、それぞれに感慨深い思い出を作ることが出来たようです。参加者の皆さんは大変熱心で、積極的に質問をして、知識を深めていました。

移動はにわ展



九合小学校 平成15年1月20日～25日



城西小学校 平成15年1月14日～18日



鳥之郷小学校 平成15年1月27日～2月1日



宝泉南小学校 平成15年2月17日～22日



菰川小学校 平成15年2月10日・12日～15日

太田市内の発掘調査で出土した遺物を、市内の小学校へ出向いて展示しました。出土品は、旧石器時代～平安時代までの土器や石器と、市内の古墳から出土した埴輪などです。同時に、パネルや開催校周辺の略年表・文化財地図も展示しました。放課後や土曜日には、文化財クイズ等も行いました。見学は、クラス単位で行い、土曜日は、開催校周辺の住民にも見学の門戸を広げました。見学者は、5校で1900人にのぼりました。今回の展示では、直接出土品に「ふれて・みる」ことができ、おおいに興味を持ってもらえたようです。

金山城跡自然探訪会・講演会



- テーマ：自然保護への考察～自然愛と教育
- 講師：松沢篤郎先生（県自然環境調査研究会員）
- とき：平成14年9月29日（日）
- ところ：ぐんまこどもの国・児童会館研修室
- 参加者：90名

講演会では、自然破壊の歴史、金山の松枯れ、生態系の崩れ等について解説され、自然保護について身近に感じる良い機会となりました。講演会後は、ぐんまこどもの国周辺の植物探訪を行いました。



文化財教室

- 内 容：「古代の腕輪づくり」
- と き：平成14年8月24日（土）
- ところ：文化財課（太田市飯田町）
- 参加者：20名

作り方は、あらかじめ輪切りにしておいた竹から、自分の腕のサイズに合うものを探し、紙ヤスリでつるつるになるまで磨きます。次に赤・黒・黄色の三色の漆を使って文様を描きます。乾かして出来上がり。個性あふれるオリジナル作品を仕上げていました。「竹から素敵な腕輪が出来るなんて」と、ビックリしていた子供もいました。2時間という短い間



でしたが、それぞれに思い出に残る作品が出来たようです。また古代人の装飾文化や生活ぶりについても感心を深めることが出来ました。

文化財講演会

- テーマ：中島飛行機の発展と内外経済環境
- 講 師：木村隆俊先生
（日本大学名誉教授・太田市文化財調査委員）
- と き：平成15年1月26日（日）午後2時30分～
- ところ：太田市立商業高校文化棟多目的ホール
- 参加者：83名

講師のご専門である近現代経済史学の観点から、中島飛行機の機体・エンジンの生産量・生産技術・近代的生産管理について図表を用いて解説されました。中島飛行機が、生産技術は先進国技術の模倣から次第に自立していったこと、そして近代生産管理



方式はテーラーシステムの導入等によって発展したこと等詳細に解説され、地元の偉人の業績に参加者も熱心に耳を傾けていました。

館長出前講演会

- テーマ：新田荘の成立をめぐる通説と新説
- 講 師：黒田日出男先生
（県立歴史博物館長・東京大学史料編纂所長）
- と き：平成15年2月15日（土）午後2時30分～
- ところ：太田市勤労会館3階大ホール
- 参加者：85名
- 主 催：太田市教育委員会（文化財課）

以下の小テーマに基づき順次ご講演いただきました。

- ① 新田荘成立史の研究史と通説の成立、異論・新説。
- ② 通説を支える史料解釈への疑問
- ③ 新説を支える史料解釈
- ④ 新田荘の成立
- ⑤ 新田系図・所領・新田氏一族
- ⑥ 東国武士の居館址の探求



黒田氏は、ご専門である絵画史料や古文書から新田荘の成立期やその規模について、丁寧に解説され、それまでの通説を翻す新説は、参加者の心に強く刻まれました。

新野脇屋遺跡群



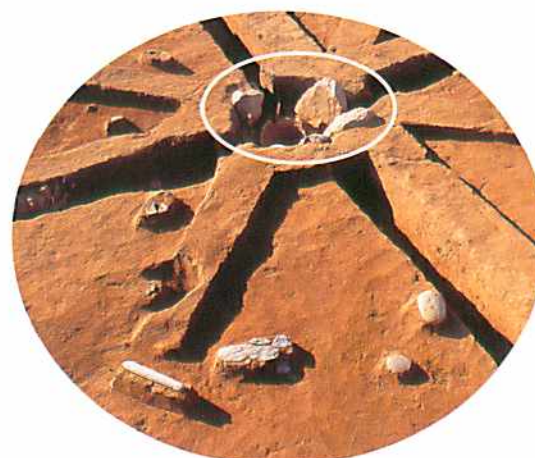
平安時代の住居址



平安時代住居のつぶれたカマドとカメ



縄文時代中期の円形住居址



同住居址の炉址
(土器を埋め石で囲んだ炉)

- 調査場所：太田市城西町地内
- 調査期間：平成14年5月1日～平成15年3月24日（第8次）
平成14年8月21日～同年10月15日（第9次）
- 調査面積：8,750㎡（第8次）、4,777㎡（第9次）

新野脇屋遺跡群の発掘調査は、住宅団地造成事業（城西の杜）に伴い、造成地内の新設進入道路及び商業エリアを対象として、遺跡の記録保存を目的とした発掘調査を実施しています。平成15年度にて新野脇屋遺跡群発掘調査を終了する見込みです。

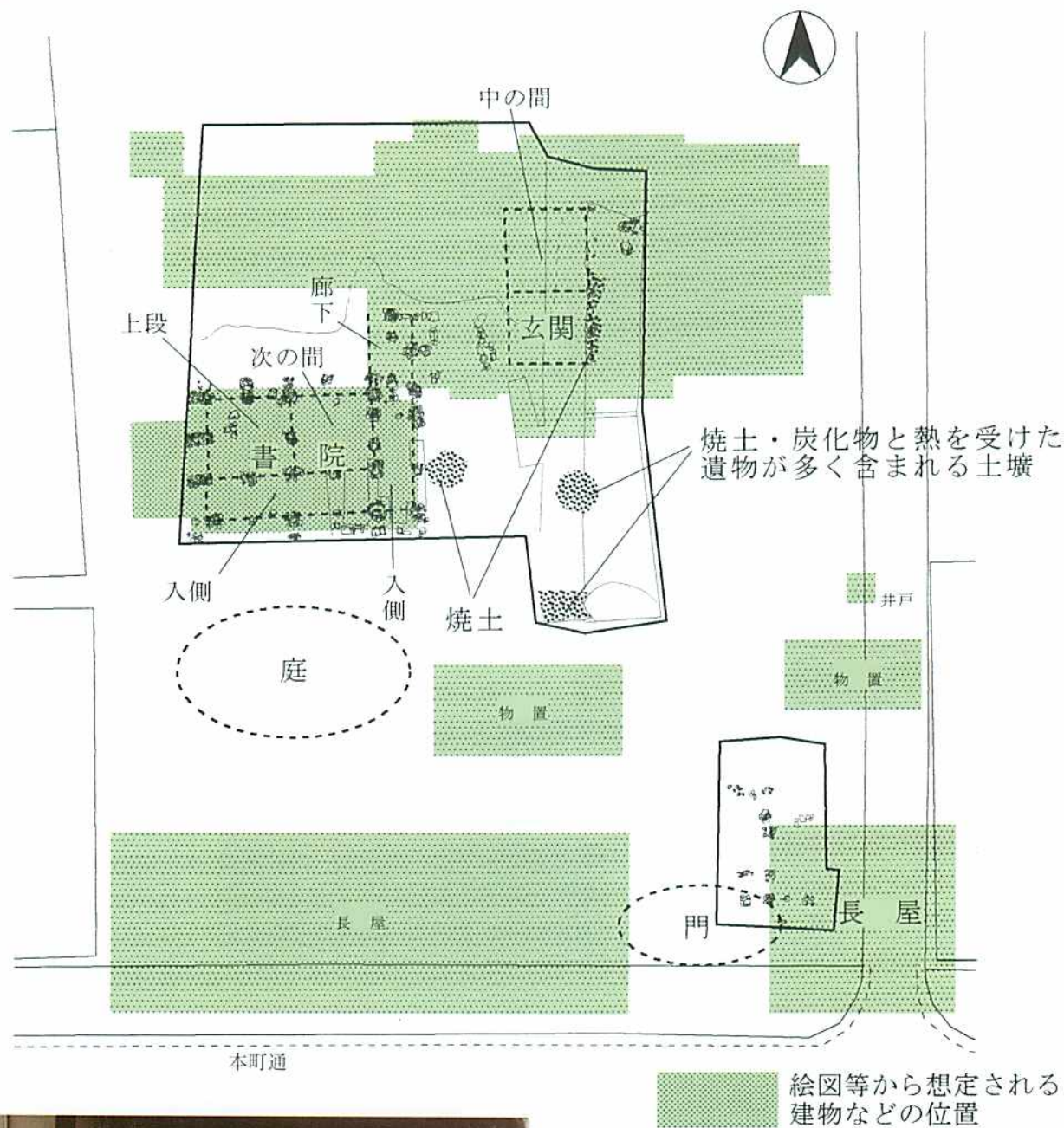
平成14年度の調査では、今から4500年程前（縄文時代中期）の竪穴住居跡1軒のほか、1400年程前（古墳時代後期）の竪穴住居跡4軒、1300～

1200年程前（奈良時代～平安時代前期）の竪穴住居跡7軒など合計30軒の竪穴住居跡（時期が不明なもの8軒を含む）を確認しました。縄文時代の竪穴住居跡の中央には、石で囲んだ囲炉裏（石囲炉）が造られ、古墳時代後期から後の竪穴住居跡では、壁際にカマドが造られ調理されていました。

このほか、古墳時代後期（1450～1350年程前）の古墳跡7基や多くの溝跡も調査しました。



本陣跡



本陣跡の発掘調査風景（東から）

- 調査場所：太田市本町地内
- 調査期間：平成14年10月24日～12月11日
- 調査面積：450㎡

本陣跡の調査では、日光へ詣る奉幣使などが立ち寄りて休息したとされている「書院」という建物の礎石などが見つかりました。「書院」の礎石には、立派な川原石が使われており、格式の高い建物であったことがうかがえます。

強戸口遺跡群(越々山遺跡)^{こしこえやま}



越々山遺跡試掘調査状況

- 調査場所：太田市強戸町地内
- 調査期間：平成14年7月29日～9月28日
(第7次調査—試堀—)
平成14年12月16日～
平成15年3月15日(第8次調査)
- 調査面積：1,800㎡(第7次調査—試堀—)
1,850㎡(第8次調査)

縄文時代前期(約5000年前)の石器(石皿・磨石・石斧等)や土器が出土しました。また、狩り用の落とし穴跡も見つかりました。

東矢島遺跡群(第20次)



▲1・2号古墳の周堀

- 調査場所：太田市南矢島町地内
- 調査期間：平成14年11月7日～同年12月20日
- 調査面積：371㎡

東矢島遺跡群の発掘調査は、区画整理事業に伴って行われ、調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居址2軒、削平された後期の円墳が2基、平安時代中期



以降の溝址2条が確認されました。2基の古墳のうち、後に造られた古墳の周堀が、前の古墳を避けるように、堀幅が狭く造られていました。

2号古墳の埴輪出土状況▶

現地説明会



平安時代の住居跡を見学する

平成14年12月7日に“食う・飾る・祈り・住まう”という4つのテーマによる、新野脇屋遺跡群の



出土した土器を見学する

遺物展示会・現地説明会を開催しました。見学者は約100名でした。



宮内遺跡



調査でみつかった住居址（西から）

- 調査場所：太田市浜町地内
- 調査期間：平成14年5月13日～6月28日
- 調査面積：300㎡

太田駅周辺土地区画整理事業にともなう行なった宮内遺跡の調査では、竪穴住居址4軒が見つかりました。これら住居址の中からは、土師器（はじき 坏や甕）や須恵器（すえき 坏や壺）、鉄製のヤジリなどが出土しました。7世紀末～8世紀初頭のムラの一部であると考えられます。

龍舞落打遺跡

- 調査場所：太田市龍舞町地内
- 調査期間：平成14年5月15日～同月31日
- 調査面積：59㎡

龍舞落打遺跡の発掘調査は、主要地方道前橋一館林線拡張工事に伴い行われました。調査の結果、平安時代前期の竪穴住居址が1軒、中世以降の溝址2条、時期不明の溝址4条、時期不明の土壇が7基確認されました。中世以降に掘削された溝址のひとつは、断面が逆台形で、館跡の周囲等に掘った区画溝とも考えられます。



事前協議

平成14年度 事前照合件数および調査面積

内 容	公共事業	民間事業	計
事前照合・協議	17件	352件	369件
試掘調査（回答）	10件	31件	41件
立会調査（回答）	4件	85件	89件
慎重工事（回答）	0件	74件	74件
試掘調査	5件	7件	12件
立会調査	4件	23件	27件
本調査	2件	0件	2件
試掘調査面積	3,402㎡	662㎡	4,064㎡
立会調査面積	699㎡	661㎡	1,360㎡
本調査面積	17,827㎡	0㎡	17,827㎡

注）平成14年度の公共事業については、平成13年度の事業調査で以下のよう
に回答しました。

試掘調査 7件 立会調査 5件 慎重工事 3件

試掘調査

遺跡名	試掘調査区域	試掘調査期間	原因者
新ヶ谷戸遺跡	太田市南矢島町895-1	平成14年4月10日	民間
越々山遺跡	〃 強戸町2082-170他	平成14年7月29日～9月28日	市
本陣跡	〃 本町19-1他	平成14年9月2日～10月23日	市
東矢島古墳群	〃 南矢島町612-1	平成14年10月10日	市
中西田遺跡	〃 内ヶ島町2055	平成14年10月24日	民間
北之庄遺跡	〃 由良町1639	平成14年11月14日	民間
脇屋深町遺跡	〃 脇屋町1089-4他	平成14年11月25日～12月11日	市
安良岡遺跡	〃 安良岡町448-2	平成14年12月11日	民間
下田島遺跡	〃 下田島町1091他	平成15年1月20日～2月13日	市
朝子塚遺跡	〃 牛沢町1096他	平成15年1月28日～2月14日	市
焼山遺跡	〃 東長岡町1373	平成15年2月5日	民間
賀茂遺跡	〃 龍舞町3816-3	平成15年2月20日～3月17日	市
寺中遺跡	〃 鳥山上町1152-1	平成15年2月24日	民間
雷遺跡	〃 石原町81他	平成15年3月3日	民間

指定文化財説明板・標識柱の設置

史跡新田荘遺跡

(円福寺・十二所神社境内)



太田市・尾島町・新田町の1市2町を中心とした範囲には、かつて日本の中世史を代表する「新田荘」という荘園が存在しました。平成12年11月1日付けで、それらの代表的な11遺跡が、「新田荘遺跡」として国の「史跡」に指定されました。



これに伴い、新田荘遺跡及び新田荘ゆかりの文化財を、地域住民はもとより、広く一般・市民に親しんでもらうために、マップ・写真を掲載した総合案内板をつくり、10月1日、円福寺境内に設置しました。

また、同一仕様の総合案内板が尾島町歴史公園内と新田町生品神社境内にも設置されました。

龍舞賀茂神社の萬燈祭

(県指定重要無形民俗文化財)



龍舞賀茂神社萬燈は、平成6年3月25日に市指定重要無形民俗文化財に指定されていましたが、平成13年3月23日付けで「龍舞賀茂神社の萬燈祭」として群馬県の「重要無形民俗文化財」に指定されました。これに伴い、標識柱と説明板を、平成14年11月30日に設置しました。

萬燈祭は龍舞賀茂神社で行われる春の大祭で、毎年4月の第2日曜日（本祭）夕刻、萬燈の振り込みが豪壮に行われます。

東長岡神明宮お田植祭

(市指定重要無形民俗文化財)



東長岡神明宮お田植祭は、平成13年7月18日付けで、太田市の「重要無形民俗文化財」として指定されました。新指定に伴い、平成15年3月1日に、標識柱と説明板を新設しました。

東長岡神明宮は、地元に伝わる文書によれば、元亨3年（1323）に伊勢神宮より分霊を勧請して創建されたと伝えられています。お田植祭りは、神明宮の境内で稲の豊作を予祝して行われる行事で、現在では、春祭りとともに毎年4月の第2日曜日に行われます。



文化財の修理

旧金山図書館

太田市指定重要文化財「旧金山図書館」の入口ドアが開閉時に支障をきたしているため、危険防止・防犯の観点からドアノブの取り付けと蝶番の修理を行ないました。また、上げ下げ窓の全箇所をチェックし、開閉の障害となっている塗装部分を剥し、窓枠や隙間を調整しました。



市場の大ケヤキ

太田市指定天然記念物「市場の大ケヤキ」が、平成14年10月2日の台風で主幹を含む大枝が折れて、訪問者・付近住民等の通行障害となっていました。また、同地の「こどもちびっ子広場」で遊ぶ子供達などの安全性・利便性を確保するため伐採・除去し、伐採終了後切口には、文化財の保護・保存の立場から腐敗防止剤（トップジンMペースト）を施しました。



朝子塚古墳

群馬県指定史跡「朝子塚古墳」が、平成14年10月2日の台風襲来によって桜の主幹を含む枝が折れて垂れ下がり、そこが児童の通学路となっており、通行障害となっていたため、安全性・利便性を確保するため桜枝4本を伐採しました。



太田市のはにわ展



■と き：平成14年8月1日～

■ところ：高山彦九郎記念館2階展示室

太田市の埴輪展は、高山彦九郎記念館2階企画展示室において、平成14年8月1日～平成15年3月30日の期間で開催しました。この常設展では、城西町のオクマン山古墳出土の「鷹匠埴輪」（市指定重要文化財）の複製品を中央に置き、市内で出土した形象埴輪を順路に沿って、年代順に展示しました。展示資料は、朝子塚古墳の蓋、天神山古墳の水鳥、目塚1号墳の鶏、成塚街道北古墳群の鶏、富沢古墳群の人物と馬、藤阿久古墳群の人物、今泉口八幡山古墳の人面付円筒、強戸小旧蔵資料、西長岡東山古墳群の盾と壺等です。順路の最後に駒形埴輪窯跡より一括で出土した形象埴輪と円筒埴輪を展示しました。また、太田市内で出土したものの、現在では市外で管理されている形象埴輪についても「望郷の埴輪たち」と称し、写真パネルで展示しました。期間中は、約500人が来室したとみられ、サポーターの説明に耳を傾けていました。



講演会

■テーマ：高山彦九郎とやまがた 一米沢・山形の彦九郎の足跡を訪ねて一

■講 師：布施幸一先生（山形県文化財保護協会専門委員）

■と き：平成14年7月14日（日）

■ところ：高山彦九郎記念館2階

■主 催：高山彦九郎研究会

■共 催：太田市教育委員会（文化財課）

■参加者：65名

米沢から山形に至る彦九郎の足跡について、『北行日記』の記述に沿ってスライドを交えながら詳細に解説いただきました。

布施さんは、山形藩主秋元家のお抱え刀工であった水心子正秀を研究する中で、正秀と交流のあった高山彦九郎に興味を持たれたとのこと。また、『北行日記』を訪ねる旅では、山形市内の案内をしていただきました。



行政サポーターズ

市民と行政の協働によるまちづくりの推進と、財政の効率化を図ることを目的として、平成14年4月から行政サポーターズが配置されました。多数の応募の中から8名が採用され、事前研修・フォローアップ研修・自己研修等を行い、展示解説や、施設管理等の業務を行なっています。サポーターは、本年度は1名ずつ半日交代で勤務していますが、来年度からは、さらなるサービスの充実を図るために、日曜と祝日には、2名が配置されることになります。ぜひお出かけください。私たちがお待ちしております。(サポーター：宮内)



高山彦九郎研究学習会

— 『北行日記』を読む —

- と き：平成14年9月1日(日)・9月8日(日)
- ところ：高山彦九郎記念館2階
- 主 催：高山彦九郎研究会
- 共 催：太田市教育委員会(文化財課)
- 参加者：38名

青山・関谷両研究会員をリーダーにし、『北行日記』のうち、米沢から山形山寺までの部分の現代語訳に取り組みました。『北行日記』を訪ねる旅の事前学習となりました。

高山彦九郎「北行日記」を訪ねる旅

- と き：平成14年9月29・30日(1泊2日)
- ところ：米沢市(上杉博物館・上杉神社・松岬神社・上杉家御廟・林泉寺など)／南陽市(赤湯宿)／山形市(山形城跡・山寺芭蕉記念館・山寺立石寺)
- 主 催：高山彦九郎研究会
- 後 援：太田市教育委員会(文化財課)
- 参加者：35名

彦九郎の足跡を訪ねる今回の旅は、『北行日記』のうち、彦九郎の師・細井平洲門下(盟友)の多い米沢、赤湯温泉、山形、山寺立石寺をバスで巡りました。

生垣整備



整備前

- 事業名称：高山彦九郎記念館生垣整備工事
- 場 所：高山彦九郎記念館西側
- 期 間：平成15年3月4日～24日



整備後

平成6年の開館時に設置した竹垣の老朽化が進み、美観を損ねるだけでなく、倒壊の危険性が生じて来ました。そこで、門の西側の生垣(サザンカ)に合わせて、統一的に整備しました。11月頃には赤い花を一面に咲かせることでしょう。

金城跡 (南曲輪休憩室ノートより)

平成14年4月16日(火)

金山城址公園を散歩しつつ、春爛漫の中、山ツツジが咲き、楽しい半日を過ごしました。ただ、道路脇に、山ツツジの生垣でもと思うのは欲張りでしょうか。
(東京都葛飾区)

平成14年4月25日(木)

更年期障害で、日々あっちが痛いと言っていたとき、友人に誘われて、こどもの国より登りました。その道すがら、草木の香り、小さい草花の可愛さに

感動しました。もっと早く登ってみれば良かった。医者の方より効果バツグン！とても気分さわやか。快調です。
(鶴生田町 Y.O.・S.O.)

平成14年12月7日(土) P.M.0:10

初めての金山城跡公園ハイキングです。月ノ池・日ノ池にうっとり！戦国時代なのにロマンチックな素敵な武人がいたのだと感動しました。土木技術のすばらしさにもびっくりです。いつまでもきれいな城跡でありますように！

高山彦九郎記念館 (御意見帳より)

平成14年4月24日(水) 晴れ

ほんのちょっとした寄り道のつもりが、とてつもない大きなものに出会った思い。政治家も警察も銀行も医者もどこか信用ならないこの世に、人が生きるということは、こうやって“生きる”のだと、ガンと頭を丸太棒で撲られた思いです。茂林寺に掲げられていた「却下^{きやつかしようこ}照^{しょう}顧^こ」を素直に、真剣に心に問い、恥ずかしからざる余命をと願うばかりです。とても、とても良い気持ちにさせていただきました。

(東京都板橋区 男性)

平成14年6月11日(火)

今日、総合(学習)の勉強で来ました。彦九郎のことや、それに関することがとてもよく分かりました。とても楽しかったです。
(沢野小 女性)

平成15年3月9日(日)

本施設があることは存じてはいたのですが、なかなか寄ることができなく、本日初めて見学させていただきました。最近、吉村昭氏の小説で取り上げられ、少しは知られるようになったかなと思います。せっかくの施設ですので、多くの人に見ていただければと思います。
(女性)

これからの文化財行政

文化財課長 諏訪 和雄

文化財は、先人が営々として培った歴史遺産や記念物です。文化財保護法には、「文化財を保存し、且つ、この活用を図り、もって国民の文化向上に資する」と、その目的が記されております。こうした観点で考えますと、文化財行政は文化財の保護・保存、整備・活用、公開・普及が基本であるといえます。

従来は、「文化財は国民共有の財産であるから、大切に保護・保存し、後世に引き継がなければならない」という側面が強調されすぎるくらいがありました。しかし、国民(市民)の目線で考えますと、歴史遺産等を整備して活用したり、調査・

収集した資料を公開し、普及に供することが必要であることも忘れてはなりません。むしろ、こうした活動が大事ではないかと考えます。

そこで、文化財課では、「見える文化財行政の推進」をスローガンとして、文化財に身近に接し、学び、享受できるような取り組みを積極的に進めているところです。その一例が、本誌で紹介している「歩き・み・ふれる歴史の道」ぐんま新田荘中央大会、文化財愛護少年団活動、移動はにわ展や現場説明会、及び史跡金山城跡の環境整備事業などです。

今後とも、国民(市民)満足度の向上のため、「見える文化財行政」の継続、発展に努めてまいりますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。

◆文化財課◆ Eメールアドレス: 040700@mx.city.ota.gunma.jp